





18
 1833
 16

繪本左圖記二篇卷之四

目録

姉川合戦之始末

長吉郎破敵陣丹波守

本村又義勇力

浅井勝越敗軍

遠坂右衛門討死

横山落城

浅井新倉裏宇佐山城

浅井新倉裏信長討陣



繪本左衛門記二篇卷之四

辰吉郎破破胆丹波守

孔明街亭み破られく琴を弾トて仲達を去らしめあり孔明が

方智仲達がよにありて仲達が才を侵く仲達を去らしむ信長の

又修徳破胆が勇まがりて悉く破る今に旗本の二徳のとなり

たり誰れ星を勇まざらん破竹の勢いにて想が里にきてとくたふ

破胆丹波守馬とくめ味方の兵を破る見てやがる心得ぬや

うみ此敵こそ信長が旗本の先をかり大勢にむを堅固に構へさ

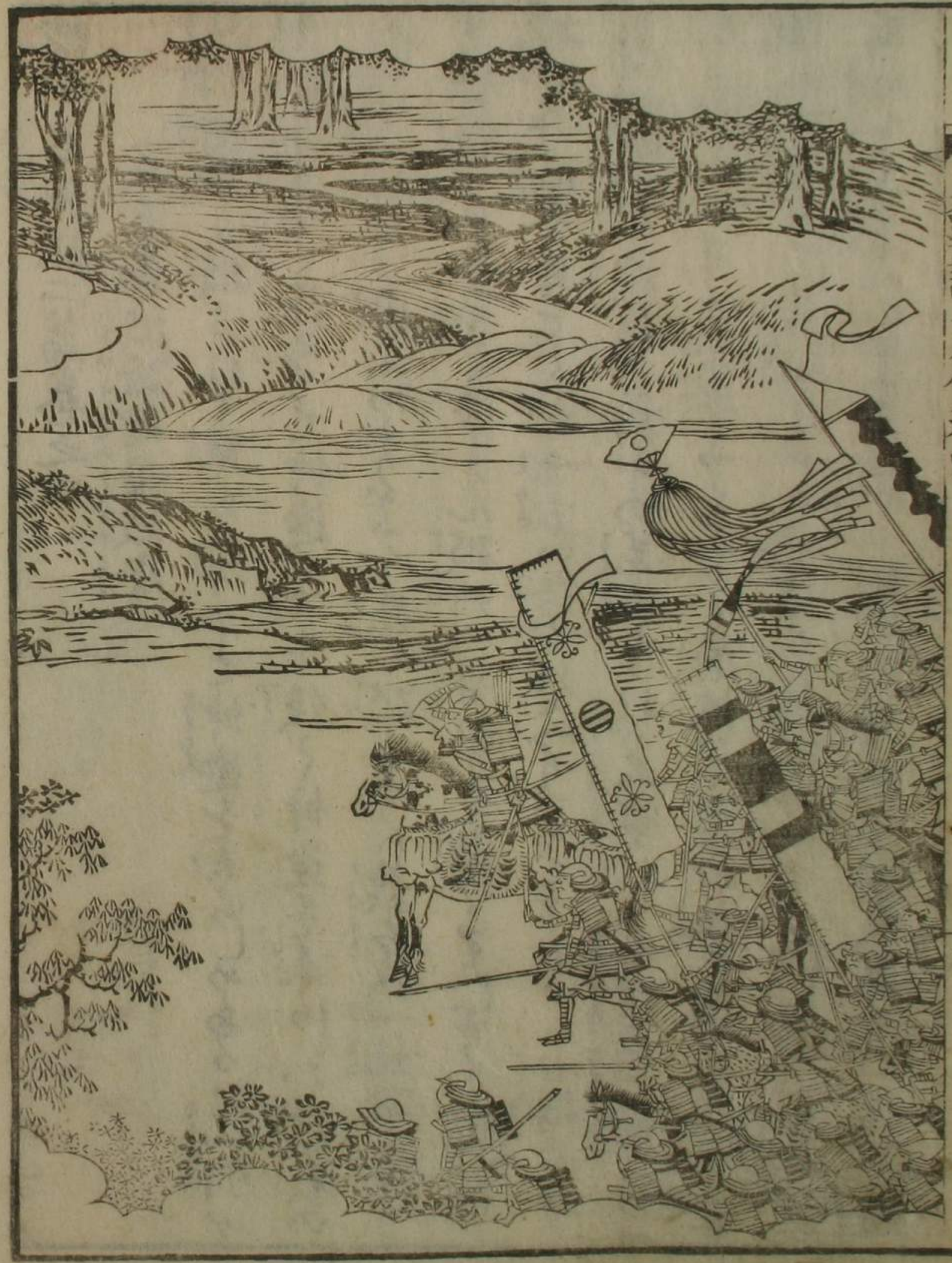
をまぐらふ計の兵卒やうも隊伍そのつて値もまどまばらみ

陣をうまへる奇計とほして味方を討んぬ破るに其ど飄陣の

馬印とまぐらひ小田家の謀士猿面冠者本下辰吉郎之け者心成



夏吉郎
 破母丹波
 と破る



東國言三卷四

孔明を欺く智略ありと尋ねるのよ、何れ猥りにくして小猿
うぐ謀計は陷不覚をえりあづるべと疑豫してとくを得と本下
辰吉即星をさく扱も我師の全うするが却て恐るゝもの
ぞ一此方より急な押寄せお前せよと隊伍そろひ敵士率又下知
して五三二五三み討てられ丹波守いよ怪しむ八方は眼をみ
敵の謀計を危うとみぐるまぐるま支へ我より軍の心ありとい
真なる哉破壁が役兵あまゝ軍を切崩し勢いさくさくしりも重
ねくねくするれば勇奪たやして何となくさうたぐり入るるを本下
辰吉即時いようとお國の強砲と御音と種こそあれ花のやう勝次
笑小六月又十郎福田大炊中村孫次右の方より本下小市郎加茂虎
之助福馬市松行切祐伝堀尾茂助面勢合て二万余人強砲の兵八百

人筒先を振お倒せば忽破壁が勢三万余人お殺され底と負へ者
殺をえりいといこ敵の謀計は落れりうよく退けやといふに大
將の下知をもい入とれと強きて殺を本下三方の勇士を勢いみ
系とて駈出せばはしも極り破壁丹波守とぐと討たれ後破
の味方ともいふとえ来し道へ走りけり本下が三の勢三
余人退治く攻討は討り者殺をえり破壁丹波守自願して
きてりして我い殺しては引退き後破の勢に近分り後其師
守長政の先陣勝もきて信長が旗本と切入りあひつゝに續
續と繰り進みぬ忽ちの軍破き破壁丹波守死に強きて
逃るれば本下勢に喰付しりゆり退る長政是と見て丹波
守後破とみり自旗本の勢三万余人勢をみて本下と向て我

其二



其三

真顯言二々有卷四



此の先河赤尾屋守中、西日向守、遠坂右衛門、勝井守、助、又、川右馬之丞等、るる虎虎の道兵を勝り、主會釈もく切て、これ時、吉歌の英をくだき、味方換をうじ、うんと戦ひ、兵を左右引け、中、開きて通、く、後、勢、向、をき、ん、と、ん、わ、れ、は、是、を、信、長、の、旗、中、長、政、諸、軍、に、下、知、て、一、息、の、切、合、信、長、と、雌、雄、を、決、せん、と、言、ひ、し、み、ゆ、い、て、これ、を、信、長、の、友、右、郎、も、敵、軍、と、し、御、流、せ、ら、れ、い、ら、ん、左、右、下、知、の、人、は、氏、家、が、勝、敗、安、否、候、を、各、二、三、余、人、換、さ、ま、し、後、井、が、先、陣、へ、切、て、う、り、赤、尾、中、右、衛、門、と、火、成、り、し、て、戦、う、り、長、政、是、を、見、る、旗、本、の、勢、を、急、に、と、り、自、來、配、合、門、を、進、め、や、く、と、知、を、な、す、ば、と、り、旗、の、兵、士、得、物、く、と、捉、て、戦、う、り、い、の、門、く、氏、家、安、否、を、切、合、せん、と、い、小、田、方、の、お、坂、井、右、近、為、計、多、信、照、佐、久、間、信、盛、等、先、に、敵、軍、

して、これ、を、み、る、此、戦、い、を、見、る、一、文、字、に、長、政、が、中、政、へ、切、て、これ、は、降、谷、兵、庫、裏、三、九、門、の、信、長、の、御、多、に、知、り、両、面、は、又、稿、を、け、つ、切、見、う、り、火、を、成、り、し、退、り、し、門、戦、い、し、と、も、中、く、う、ん、方、と、も、う、り、遠、坂、右、衛、門、勝、井、守、助、兩、人、と、今、日、の、軍、み、討、負、の、勝、て、二、度、今、面、と、合、せ、と、令、と、應、答、う、り、も、難、く、は、い、向、歌、の、あ、い、さ、く、吸、さ、ま、に、切、用、と、換、さ、ま、し、難、向、う、あ、る、を、幸、み、切、ま、れ、此、あ、人、の、切、ま、り、坂、井、が、の、兵、士、も、に、度、落、に、あ、て、ん、と、う、り、右、近、又、子、の、番、の、合、戦、は、敵、の、今、又、安、を、破、ら、れ、て、い、何、面、目、は、若、に、面、を、合、と、き、配、と、き、期、を、奉、り、た、れ、と、郎、等、ま、ぐ、ふ、又、十、余、人、引、具、し、て、逆、る、味、方、は、月、も、あ、け、ず、長、政、の、旗、本、へ、一、条、に、こ、と、切、入、う、り、中、に、も、嫡、子、久、亮、の、血、争、壯、ん、の、若、武、者、う、く、十、文、字、の、繪、引、さ、げ、長、政、目、が、け、弛、勢、を、續、く、味、方、も、う、り、う、り、

長政の旗本をけるぞとて又我を久我元来勇力安政の若者なり
 右とた(实例)近寄者いきて扱のけ(督附)因(負)死人數十人長
 政の若三(五)むうにぬるれ(川)右馬之(乗)け寄て(合)三(三)お
 我(い)が(早)川も(ま)の(勇)士(方)う(う)う(う)い(い)あり(ん)久我(が)実(實)槍(や)と
 交換(う)て(綿)噓(を)実(通)う(れ)何(と)叫(こ)で(死)う(う)う(う)是(を)見(て)長政(の)
 近(近)士(百)余(人)各(各)首(先)死(一)度(ま)ど(と)お(放)せ(む)ん(な)る(が)坂(安)
 久我(久)胸(板)ま(ま)に(つ)お(的)れ(其)ま(倒)死(う)う(う)此(此)久我(久)十三(歳)の
 時(時)神(神)流(流)ち(り)が(建)部(部)源(源)八(八)郎(郎)を(討)て(信)長(の)感(感)状(を)賜(り)今(今)年
 ま(ま)に(十)八(歳)末(末)の(日)き(若)者(を)り(を)此(此)戦(戦)場(を)極(じ)に(討)死(を)遂
 る(人)情(情)ま(ぬ)者(を)と(う)う(う)う(う)確(確)言(言)畢(畢)死(死)天(を)て(久)我(が)代(代)い(い)と(も)
 味(味)方(を)と(る)れ(只)一(人)か(く)ま(で)流(れ)く(切)入(る)う(う)う(う)活(て)ゆ(る)き(と)信(信)長

云(い)ち(抑)と(致)う(せ)あ(い)う(れ)又(の)右(右)近(近)山(山)向(向)け(時)浅(浅)井(井)掃(掃)部(部)日(日)守(守)助(助)
 等(等)と(史)を(り)じ(我)い(が)久(久)我(が)討(討)死(の)う(を)ま(る)れ(い)も(い)死(せ)ん
 と(群)飲(飲)の中(中)へ(入)を(即)等(等)救(救)ま(け)る(ぞ)と(響)に(と)り(と)諫(諫)る(は)
 此(此)軍(軍)味(味)方(方)敵(敵)小(小)と(る)ふ(も)あ(い)び(太)お(の)沖(沖)大(大)う(も)是(は)い(つ)ぬ(ぬ)抱(抱)と(い)ふ
 狂(狂)い(あ)ひ(て)討(討)死(を)急(急)ぎ(終)ふ(ぞ)と(既)に(沖)の(勢)我(が)い(つ)今(今)の(陣)は
 ま(ま)に(よく)勢(勢)と(り)て(始)終(終)の(勝負)を(決)定(せ)ら(れ)其(其)後(後)は(と)を(意)
 も(う)も(計)ひ(の)め(き)と(て)何(何)う(に)引(引)入(入)せ(ば)右(右)近(近)其(其)裡(裡)は(屈)服(服)
 候(候)を(う)る(う)退(退)き(る)

本村又花勇力

坂(坂)井(井)右(右)近(近)う(う)び(勢)を(引)あ(げ)る(は)浅(浅)井(井)方(方)是(は)久(久)我(が)得(得)る(は)仇(仇)久(久)同
 為(為)計(計)多(多)兵(兵)と(切)破(破)ん(と)て(我)は(若)に(殺)せ(破)壁(壁)丹(丹)波(波)守(守)後(後)陸(陸)は(相)て

本村
又
勇力
の
図

真蹟言二角者四



〆〆〆〆此ありとまをいんく休を立止し長政が勢と一匹に成り我を
 賜んとし本下居者即秀吉が策戦いすりて左右を以て休
 居るが破れが勢無がまは攻討し久々に急ぎ士卒をわかし
 長政の後破れが衆に喰ひてうけ入る後又は門を戦ひる此合戦
 のみ様こそ只なりし保東の方の信長この旗本はくく氏家安成の二
 お浪井の先々赤尾中西等と戦ひ其次に仇久回為討ふは長政の
 旗本と合戦をば長政の後又本下居者ありてこれといふと戦へを
 其後の破れ丹波守本下が軍と合戦を信長後及今川義元と揃
 戦ひは戦ひしよりこまめくおとと烈しき戦ひは矢叫び鉄砲
 の音の大きき御音ききよりて喧嘩よりも冷しくお合戦の力に輝
 と電光に似て雲間を照し馳らる人馬喰ひあふ難儀の事と天

又ほ（混壯）と微（ろ）と怒（と）とくす（く）我（わ）いかり（わ）本下（ほんげ）が兵士（へいし）ふの勝（かつ）次（つぎ）賀（が）小
 六（ろく）堀（ほ）尾（お）茂（も）助（すけ）加（か）后（ご）虎（こ）之（の）助（すけ）勝（かつ）馬（ば）市（し）松（まつ）片（か）切（き）祐（すけ）他（た）等（ら）の勇（ゆう）士（し）我（わ）押（お）さし
 と切（き）て廻（ま）れは破（や）戦（せん）が後（ご）兵（へい）ふも萩（はぎ）野（の）部（べ）左（さ）郎（ら）上（う）村（むら）新（しん）吾（ご）宮（みや）幸（さち）彦（ひこ）治（ぢ）
 即（すなは）ち飯（い）森（もり）三（さん）吉（きち）主（しゅ）勝（かつ）田（でん）権（けん）たの（たの）う（う）と皆（みな）一（ひと）人（にん）あまの勇（ゆう）まなれはたの
 う（う）りた（た）ふ（ふ）く（く）一（いつ）つ（つ）氏（し）削（け）削（け）政（せい）令（れい）勝（かつ）原（はら）の（の）まも（まも）り（り）ふ（ふ）く（く）ふ（ふ）く（く）に（に）忽（たち）に
 く破（や）戦（せん）が後（ご）兵（へい）ふより私（わ）に（に）ま（ま）た（た）た（た）ふ（ふ）く（く）と（と）用（もち）さ（さ）る（る）び（び）き（き）裏（うら）崩（くづ）して
 強（さ）き（き）に（に）敵（てき）も味（み）方（か）も何（なん）の（の）う（う）や（や）と驚（おどろ）か（か）て（て）見（み）る（る）に（に）六（ろ）六（ろ）の（の）余（あ）の
 大（おほ）男（おとこ）黒（くろ）と毛（も）綿（わた）の（の）糸（いと）に（に）威（い）し（し）たる（たる）奥（おく）只（ただ）を（を）着（き）し（し）敵（てき）形（かたち）あ（あ）る（る）鬼（おに）
 を（を）居（い）首（くび）と着（き）し（し）兵（へい）黒（くろ）の（の）お（お）ど（ど）大（おほ）に（に）破（や）戦（せん）ひ（ひ）ろ（ろ）げ（げ）て（て）解（と）く（く）敵（てき）を（を）片（か）に（に）割（わ）る（る）
 きて（て）い（い）投（な）の（の）け（け）打（うち）倒（たお）し（し）量（りょう）の（の）つ（つ）づ（づ）て（て）お（お）を（を）と（と）る（る）お（お）ど（ど）荒（あ）れ（れ）又（また）何（なん）と（と）馳（は）
 巡（めぐ）れ（れ）ば（ば）此（こ）者（もの）只（ただ）一（ひと）人（にん）は（は）薩（さつ）倒（たお）され（れ）破（や）戦（せん）が勇（ゆう）軍（ぐん）使（し）人（にん）私（わ）に（に）て（て）見（み）る（る）ふ（ふ）く（く）

其二

其顯訂二偏卷四



本下及者即太きに勇味方を助る勇士を討とる續けやつで
 けと下知とるにぞ加茂虎之助美先馬をうけ出村雲三之助
 敵の中へ押入と喚てうけ入新来の郎等并太九郎より先
 へ走り出て大長刀をおうり切立難立我ハ片切福徳勝次
 第一流堀尾中村の輩我もくと切立し敵陣が後兵さんぐ
 如く級定と件の勇士はも敵陣が歩兵を退りし一足も刻ど
 我ハありとま秀吉とるうふ足をと味方を助け勇戦とる何
 者たるぞ名取易のよと下知とるに軍役馬を馳せかけ来る
 大音に味方を助る我ハ誰人たるぞ姓名取鞍ドめと喚い
 つて此所敵勇士敵陣が後兵は馬回控とるのとちかおして我ハ
 するが我ハいさうとるうに加茂虎之助が郎等本村又我ととい

も終るに多うけて馬回切る軍役此我ハと見果てて引
 りして秀吉よかくと敵と又我ハうなる馬回が首級とて引かせ
 加茂虎之助とるにうらむ馬をうけ出本村又我王様勇戦感
 称とるふと秀吉は加茂虎之助にありと喚りし又我謹で畏り
 某が老母三日以来又うらむ馬の吊ひおとせとて執事ハ御
 目見へのあまきし不令我の美衣布をさすとのふと産物又は
 と腰に付る者三三三とるにうらむ馬のうらむ馬のうらむ馬
 謂てい秀吉本村が武勇とて感し軍役とてよく褒称のに
 とて我ハ兵を二万には長政の旗本と後より表付たり

浅井勢惣敗軍

小田原の太軍入礼とて討に付し我ハていさ勝敗おれり

海井務
 燕奴軍



石に信長が後陣を据へ明智十兵衛光秀摩多政光清門奉和両
人二三人今知より曾て戦ひたる勢を以て浅井の先陣赤尾
中西がも援給ひ入るに三三三実崩せば又我の勢に軍勢も
此勢も討崩れ討る者殺をえりけりぐふめて敵を討て
小田の軍お氏お安をいふ力を得て經兵急に討てを計
佐久間も勇まはる長政が旗本と切り合はれ後の方より
最若郎太の國を焼くけりけりぐふと揮ひて浅井の陣を
焼く素くお破らし右様左様と敵軍ともあはる
今朝此合戦よりまる討は討て敵軍より浅井のよ力を
即系継を金崎小田後兵の三河勢も又余人と北の姉川
抄のつらに戦ひしが惣倉惣大軍とて終に討まけ惣崩れ

ぞぬりにさる此討惣倉の勇兵馬柄十郎左衛門とて
が敵軍を多きに思ひ入る三寸の太刀力をまゝに
崩れぬ向ふ者も獲もぬれたのちけりけりぐふと
けりけりけり一人もぬりたる安は三河勢の内より
へる大割の勇士も槍提名をうけて向ふるも
き者の振舞うる奥途の門出で悟せよと作の太刀
三打戦ひが白坂いふ敵とてきけりけりけり
吹返すをハすさう切刻も馬より落て死にけり
が中五郎治郎は六郎五郎郎等山田宗六も後三人切
並ぐ切てるも甚少しむいるまど先をのぐ山田宗六
辺より腹後まで切先より斬破し白坂見守り情と一世の



遠友
森右衛門
討死



を組くみしき首くびをたてに上あり呼吸あひ遠あん後忠勇あやう才略兼使さいりやくけんし武之
 一に教しよの諫言けんげん用ひらるに信しん川がわの露つゆと消くしに願ねがはし
 是次しげ之此こ行中しやうちゆう久保くぼ行中しやうちゆう兵衛重治べいゑしやうぢ身みなりしかる人ひとは
 中なかつの浪井なみのいの屋や遠とほ後忠勇あやう門かどの武士ぶしなり我必われかならず彼かれ首くびと
 見みべしといひるが果はてかたがたに別わかれの者ものはあらずと抽ひ
 ちりちりと人々ひと感かんドあへり

横山落城

浪井朝倉なみのいあさくらの両勢りやうせい信長の爲ために討崩うちくづされ船倉ふねくら本國ほんくに浪井勢なみのいせい小谷こやの城
 へ引ひきつれば横山よこやまの城しろも籠こもり大將だいしやう本佐ほんさ後守ごしゆ村肥むらひ後守ごしゆ三田村みたむら左衛門ざゑもん尉ゑい
 等ら今いま後治ごぢの勢せいもちり力を盡つくしこゝろをえり此城このしろを押おす大將だいしやうの
 三下さんげ郎らう信兼しんけん庭五ていご郎らう左衛門ざゑもん不破ふた内守うちしゆ等ら三さん余よ今いまと聞きくは下

後ご右みぎ郎らう秀吉しゆけい新あらため三さん余よ餘騎よきの勇兵ゆうへいを多おほく降くだす大おほの方のうへ攻せめ都みやこ合がひ
 六む余よ人ひとの軍勢ぐんせい大おほく降くだす斗たたか舞まの夜よを渡わたり美み々々に勢いきなりひを
 下したは城兵しろへいも恐れ母ははのき落おちさる大將だいしやう本佐ほんさ後守ごしゆ
 大おほに城しろり去さるを励げんし防戦ぼうせんの用意よういをなす時ときは下した後右郎退ごみぎのりひる
 の城しろ際ぎは馬うまと乗出のりだし大將だいしやうをり下したの船倉ふねくら浪井なみのいの両軍りやうぐん勢せいのぶく
 め迎むかへし今いま誰たれをたのむに籠城ろうじやうせしや信長しんぢやう云いひ仁豊にひゆを天てん
 下したと征せいし後右郎ごみぎのりは忠志ちうしを感かんドあひ城しろを用もちき落おちちりし今いま下
 助すけけあへりやう困くわん城じやうはと罵ののしり大將だいしやう本佐ほんさ後守ごしゆ久保くぼ
 にあつた大將だいしやう怒いかでかり美み々々に心得こころえぬ敵てきの一言いひことを浪井なみのいの城しろに
 ぬき城しろを守まもるもつゞき軍ぐんの勝敗しょうぱいは別後べつごにうけり長政ぢやうぢやう後軍ごぐん
 せうとつゞき現いま在ありて小谷こやの城しろを守まもり我われ長政ぢやうぢやうの令しやうに

横山治城
よこやまのりやうぢ



いんそや城を開きおろしと落しなむと汝等飯沼の勝利にわたり
得るに大言は吐くそ押しきれとよ。長政其氣を害し信長は泡
吹てん其時汝等我くまたより臨幸飯沼にほく執城得ん
と傍若無人に罵るる本下が後兵大に怒り悔き敵の悪まを
一踏み跳ちてせよと一月と計と近より飯本下制し大に笑ひやるは
我汝等所忠勇の者と思ひ信長の仁心を押ひいらぬ退城せし助け
ふまんと思ひは日本兵の腹痛者てあつたよ今城を開き退き
せば城おに害せらばと思ふるに飯沼勇あるままたりてせむ
まき城を守らんより開城して主人を助け若敵は害心しむと敵
て捨んは何のむねなりやと門をかり小城を守り味方の後詰を
たのしむ細みより其のおとくは居たり死を待たざる者といふ事

我いふまは蓋はいつぬ城中の軍士兵卒怪し我言をうけたまひ
城の大將本佐俊守思ひて忠義をまじに此城を自滅せんや
皆くまおめりて心次第思ひくも飯沼は信長の計を知
く途中に押ひくしも妨げぬと只一人の腹痛はえられ城の中
らに城死せんや又俊守のなれは然る命を惜むことなし
得る大言とて響きとて演りたる星をまといと大勇ま
つるに士卒も城を大に堀をまじに臨みくといひて我れみ
と飯沼は飯沼大將本佐俊守大に怒りたまふと下制と
も身にも又まを繰り大に城戸を開き又十騎百騎落
ゆれど大將本今いころなりと勢勢二三百余人共一文字に秀吉
目かけ切て出たり結まふける本下勢に方より大圍と一騎もあ

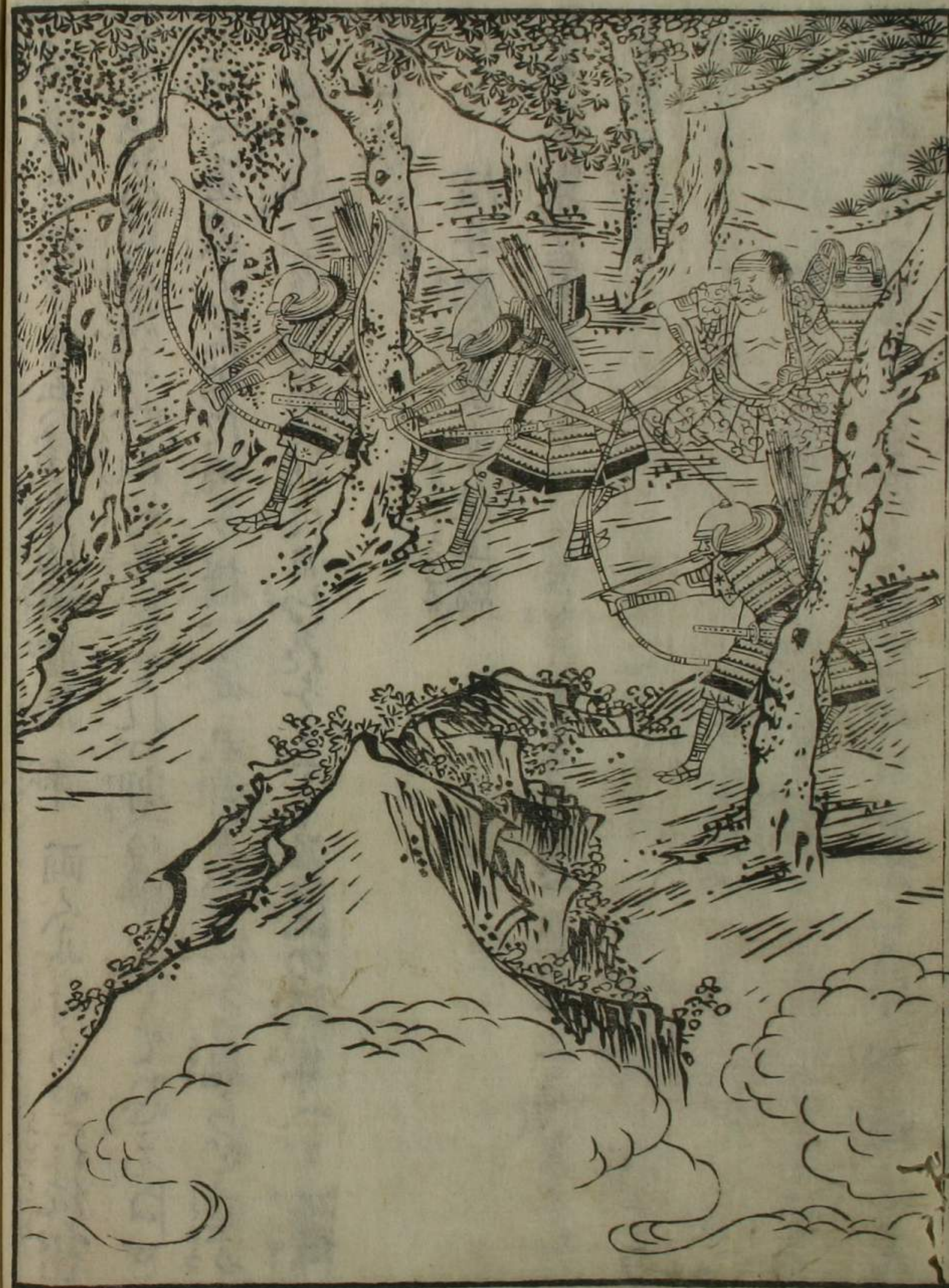
斬捨つゝ死骸なるる大野本佐渡守丸軍の中は討死と此体を見
て城みゆりし時村三田村にも勇士のまゝありし武士たれども眼
大野本が討死に恐怖して皆一統に降参し城を開きて渡りけ
り秀吉城よみて一人も害するものなく尽く焼たれし皆よろこびて
小治政にして安らざる安みおひて横山の城幸なりし處に此
有候をみて信長公に後進を信長公に此勢を遂に小治の城を
攻め取らんと討たばと其用意をばし終ふに國三好の一黨へ
軍勢を遣ふ都と攻んと横津まで出張すは風雪にたれは
果て勇氣を失ふなりと先陣は討つに討つにまじりて計
議ありしとて横山の城に就きしに咽首たれは易者の士の守り
ふれ城をたてしとて本下後右即をみて城代はし本下が居城長

濱の城みゆりし中兵衛重治朝野孫平 兩人み守らせし佐和山
みゆりし別府城丹波守居城とれは押しの勢なりてい心えは
て百々居候とつゝおれ城を構へ庭に即た湯門を籠らせ置
のち南海にたれは六月廿九日の夜をまゝ兵衛の攻撃へて城
せられしなり

浅井新倉政守佐山城

室は三好の一黨岩成主税之助なるる本年足利のお軍を討ちし
京都本國寺は押寄合戦に及ぶれども敗軍しては國に逃りたりと見
合せ居りしころ信長浅井新倉に度々合戦ありてははははと
たれは此處にまゝとて信長を討ちし義昭をもちしとて三
好日向の下総守はし城を岩成主税之助松山表十郎藤原左

河井新倉
 宇佐山の
 城を
 攻む



永安宅基を即ち其勢一万六千余人元龜元年七月廿七日に
國の池を救ふに津國時田後藤より陣し同國東成郡石山
幸願寺をかくし要害乃地み岩成構合戦の用意成ると依
畿内の強勅大方より此有京都より追く信長へ追進ありたり
さらば此賊徒等を休代しとて美濃尾張近に停勢の軍勢三万
又み余勢を引率し信長自八月廿日は岐阜を立て津國中を改
をた三好がまゝ合戦より及ひる時と後身は守山よりをたて討
て来れ信長の後を討て婦川の眼をくんとて城前の稻倉と
中合せ日九月十に日坂幸陣を立敵山をわたり今山山の衆徒
等元來稻倉家の檀越として其因縁とての上信長と恨と含む
る既と幸にたりたりに候ふ両家の軍勢とてまぐりては

ともい力を添て信長を伐ぐと勇とて其軍威甚強く系
都の雲集するい思れとをより強勅と其に及宇佐山の城に
信長の合戦九郎信長は太田と三好の津門可成を後見と後
軍は細下と地蔵に守武成又即大津門肥田玄成日長石津門等
二万余人して籠りたる後身長政後藤と上洛の途筋あり此宇佐
山の城を攻めしと長政自より三万余人唐崎より押寄り稻倉勢先
陣武部と浦系後藤三万余人後陣中務系系恒三万余人河野村より
押寄り一息に美濃とんとりて地蔵より三万余人三津門より余
騎町より出張して稻倉勢と増くんと戦ひしが仍り負て退く
武部を浦系後藤の門より退るに相國と見ると元々後藤の着た
く御着くこととあり童く伏勢を右より一日と戦り鎗ぶと後をひく

船倉勢を突きしむる三九清門ミビく下知してきて久せし重良
等道家清十郎内助十郎尾後原内日八等の勇士鎗兵を多く
突きしむる船倉方さんぐみあてに追討切着るをみる敷と
あつて三九清門味方の小勢をみえり見追捨しよく城へ入ん
とる所船倉の後陣中勢悉く順安山崎を付入せんと追来を
重良元清門にては猛威をふるく相戦ひ勝負のきりもなきに
清井長政横合より鉄砲をおけど門を喚て討てりしに終つる城
兵前後の大軍みな固く討り着敷をみる三九清門勇力之を
みても續く味方もあつたが今いふ思ひん船倉尾後通を
たねに追来り多勢の中はけ入敷を討り廿余人其身も痛
敷多負ぬる即等も防矢付させ難脱捨腹十文字に掻切て終
る

をいふに多討り多幸に十八歳之歳はあひく尾後通を始り
と重良が即等十余人敵の中へけ入く着らるる死するも其軍の
中へ切死するもあつた活る者も皆討死をみるる城中にい
るお九郎信治三百余今て籠らるるが遙く重良が討死を今何
期とてさき地味は守満とも城戸を用て討て出勝かたりたる
船倉勢は會衆も多く突て入追りしに中討死ひが小勢をみ
いそぐ大敵にあらるる幸とも戦ひあつたお九郎信治も其軍中
討死あひしむる地味は守も是までと思ひ懼るる方と踏込
群る大軍とありしにせむ西へあひけきたに追ひ思ひ難哉とこれ
討死するもあつたお九郎信治も其軍中討死あひしむる地味
は守も是までと思ひ懼るる方と踏込群る大軍とありしに
討死するもあつたお九郎信治も其軍中討死あひしむる地味
は守も是までと思ひ懼るる方と踏込群る大軍とありしに

表びまうり大津の辺りと放火を妨して孫軍威を震ふる

浅井初倉與信長對陣

去程め信長卿の傍に中務より出陣して三好一家と對戦するに宇
佐山にて信長卿重三九湯門討死し浅井初倉が威勢を震ひや
がて都を襲撃するはばこれに足るの敵系都を攻めつゝ勇く敵を
打ちとて上洛の利をせしめられし三好の一黨が願寺の門後等
と度くれ合戦し軍士殺多損多く小田方の敗軍となりけし信
長源く勝り給ひ横山の城よりし本下原右郎を召れ進退と同
あふみ原右郎計略成ひて本願寺の門後を討破り漸先敵乃
恥辱をとりて去る右郎を三好本願寺の押へみ疎く日九月廿二日
信長卿中務表を御立ちしに長坂にてと白せ給ふも依

て本下原右郎軍勢をうち所々の陣を拵固し柵と結び運來本
をうちけ三好の少本願寺の敵後より出らんと威を逞くするに
浅井初倉両家の大軍の率より比叡山より登り陣が峯盡き山を
山より陣を張り信長卿志が城より本陣を居られ山の林蔭なり
番を居る穴の隙隙田中村唐崎西の林蔭古城の跡なりと諸
の軍が成りし陣をうちし小田の惣軍勢部合三万余騎比
叡山を圍み石目み表をうちしに足利の將軍義
昭も亦山に軍を敷き出馬ありて陣を張せ給ふ此有城なり
よく進進するに初倉義康自三万余騎を率しはるの城
中に攻をうち初倉家の前後の勢山門の衆後惣勢合て六万余騎
各切斷をきて陣しこれに小田惣勇等もこれにもたむく攻めり



安海 新長 信長 對陣
 真圖



の不破津井より信長の強兵に恐れ多くや散てしを中て戦いと
西陣お守て後とせしる信長仇之同信忠頼業は鎌倉の
人として山門は登らし山の大衆を勧誘し等き此井船倉と援助
し足利のお軍と敵討する隙を差し先取を改め後井船倉の両方
進退け義昭云ふ討しと申進られし衆後を孫我意に慕殊と
船倉お代に播磨の好もあつた捨てたは返言と云ふおいて
信長も津井山門を恨み終る此山を焼拂い思ひあつたをきくとて憤
られる此對陣は敵目を送る程は勢及びたの今民も安かゝる
一揆を起し乱妨とるの大方なりしに我中勢は長治の一揆も信
長云の今才者治郎信忠の城と攻て信忠と討え殆ど頼業より
うども軍勢順なく制しにべき操りる信長もして扱ふと云ふあふ

